

技術情報

I 平成27年度 第2回 水稻生育診断情報

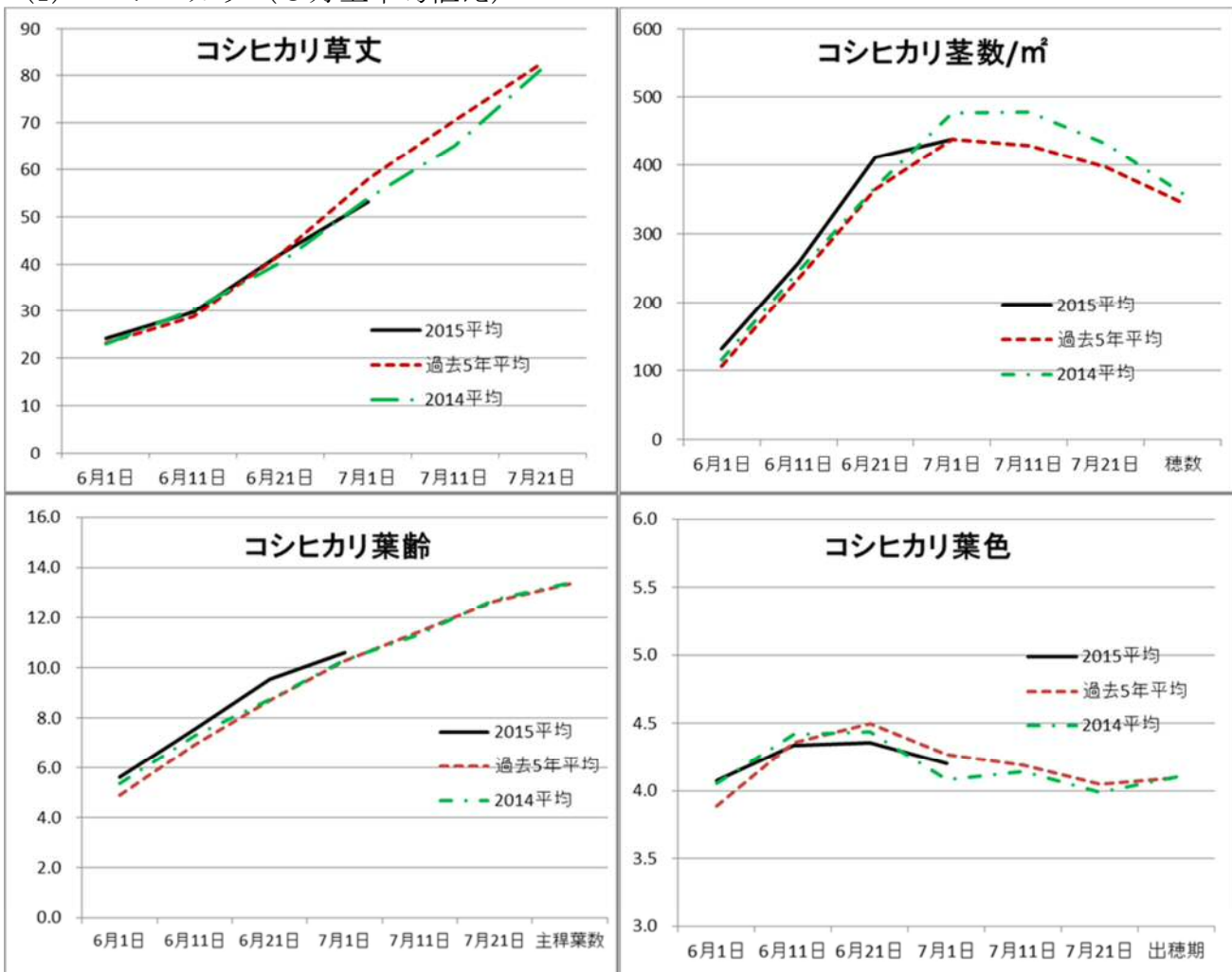
山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(No2)を基に技術情報を作成しました。
水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象概況

- ・5月中下旬は高温多照で推移したが、第3第4半旬にはまとまった降水量を記録した。
- ・6月上旬は、まとまった降雨があり、降水量が多く、日照時間は平年並～少なく、気温は平年並みからやや低かった。
- ・6月中旬は、梅雨天候となったため、日照時間が少なくなり、最高気温は平年並～低く、最低気温は概ね平年並みであった。
- ・6月下旬の天気は周期的に変化し、まとまった降雨があった。日照時間は平年並み、気温は平年並～やや低かった。

2 生育概況と今後の管理

(1) コシヒカリ (5月上中旬植え)



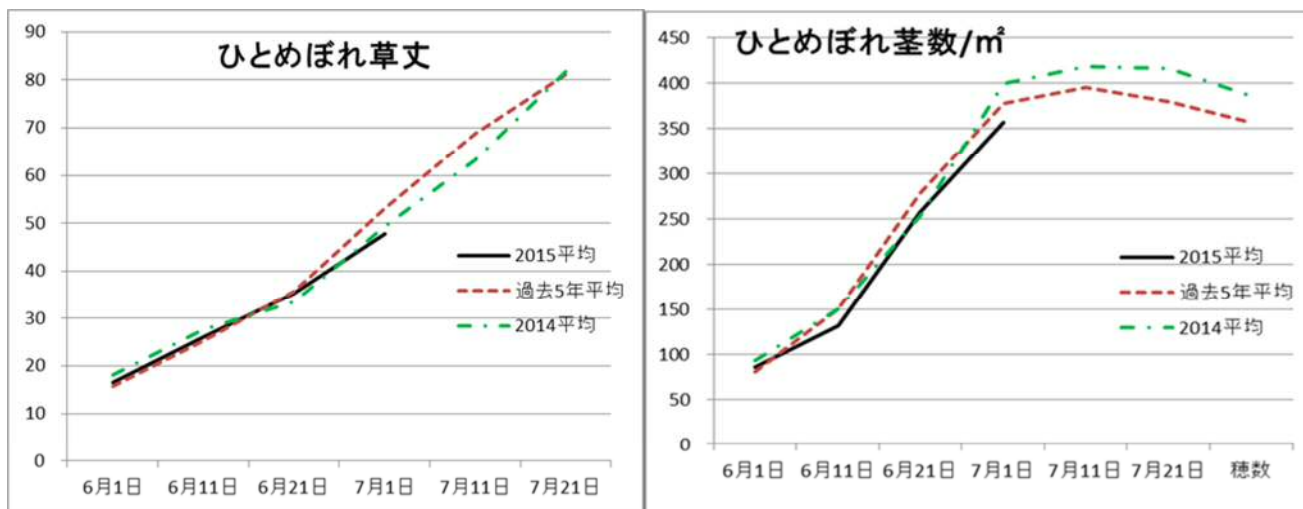
①生育の概況

- ・6月下旬の気温は平年並～低かったことから、この10日間は生育の進みは鈍化し、7月1日時点で、平年に比べて葉齢の進展は同じかやや早くなった。多くのほ場で最高分げつ期に到達しているが、茎数の対平年値は、ほ場によってバラつき、分げつの発生速度が変わらず過剰分げつとなったほ場と、分げつの発生速度が低下し平年より最高茎数が少なくなったほ場がある。葉色は平年並～やや淡くなっている。
- ・5月上旬植えの中でも田植えが特に早かったほ場では、幼穂形成期を過ぎ、穂の急速な伸長が始まっている。移植時期が遅くなるにつれて、低温の影響で葉齢の進展が平年並～やや遅延している。
- ・6月下旬は気温がやや低く、まとまった晴れの日もあったことから、草丈は平年よりも短く、草姿は改善してきている。
- ・幼穂形成期、出穂期は同時期に田植した場合でもバラつくおそれがある。

②今後の管理

- ・移植時期、施肥管理などにより生育の進捗と茎数にバラつきが大きいことから、穂肥のタイミングや施用量を見極める必要がある。葉色は目標値まで十分に淡くなる見込みだが、穂肥施用時の茎数の多少によって、施用法を決定する。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・早いところでは、すでに湛水管理を実施しており、遅くとも7月10日頃からほとんどのほ場で湛水管理に移行する。
- ・県内の一部で、苗いもちの発生があったこと、今回の定点調査で葉いもちが発生したほ場が山間部を中心に増加していることから、発生に注意し、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する（いもち病の伝染源となるため）。

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)



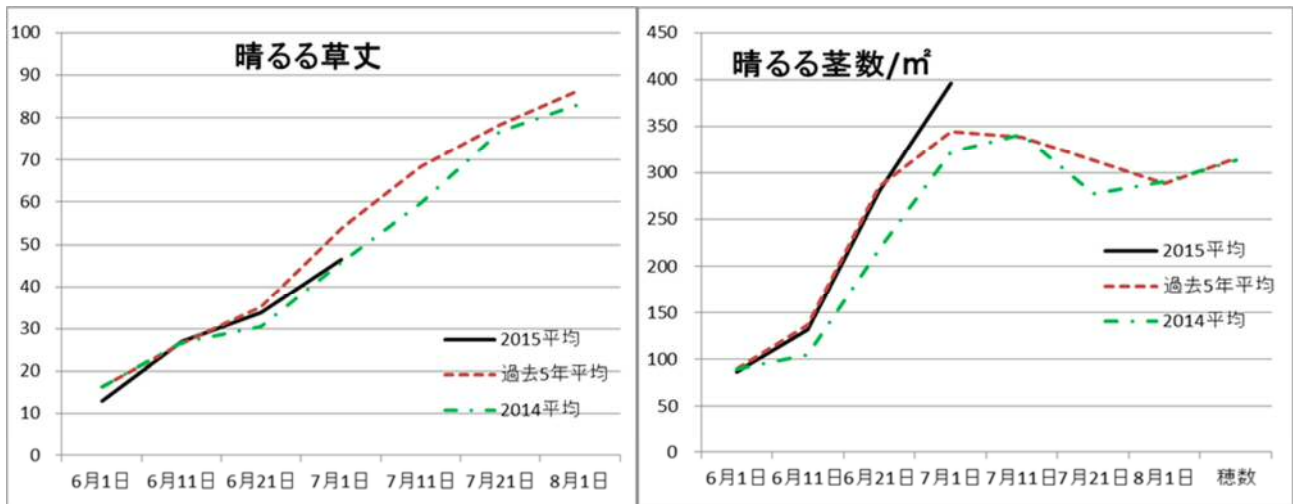
①生育の概況

- ・低温の影響により、この10日間は葉齢進展の鈍化が著しい。7月1日時点で、平年に比べて葉齢の進展は同じかやや遅く、草丈は短い。茎数は、ほ場によってバラつきもあるが、概して平年より少ない。10日前の調査では、葉色の発現が例年に比べ停滞したが、6月下旬の好天により葉色が出てきたほ場も多く、今後、茎数が緩やかに増加して幼穂形成期と最高分げつ期がほぼ同時期になる可能性もある。
- ・5月中旬植えの出穂期は平年並みかやや遅れる見込みである。

②今後の管理

- ・必要茎数が確保され、中干しを実施していないほ場では、速やかに中干しを行う。栽植密度が低い場合など、m²当りの茎数が400本以下の稲は強い中干しを避ける。
- ・5月中下旬植では、分げつの生育確保と根の健全化のため、湛水管理の開始時期となる7月15日頃までは、間断湛水を徹底する。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・葉いもちの発生に注意し、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する（いもち病の伝染源となるため）。

(3) 晴るる (5月下旬植え)



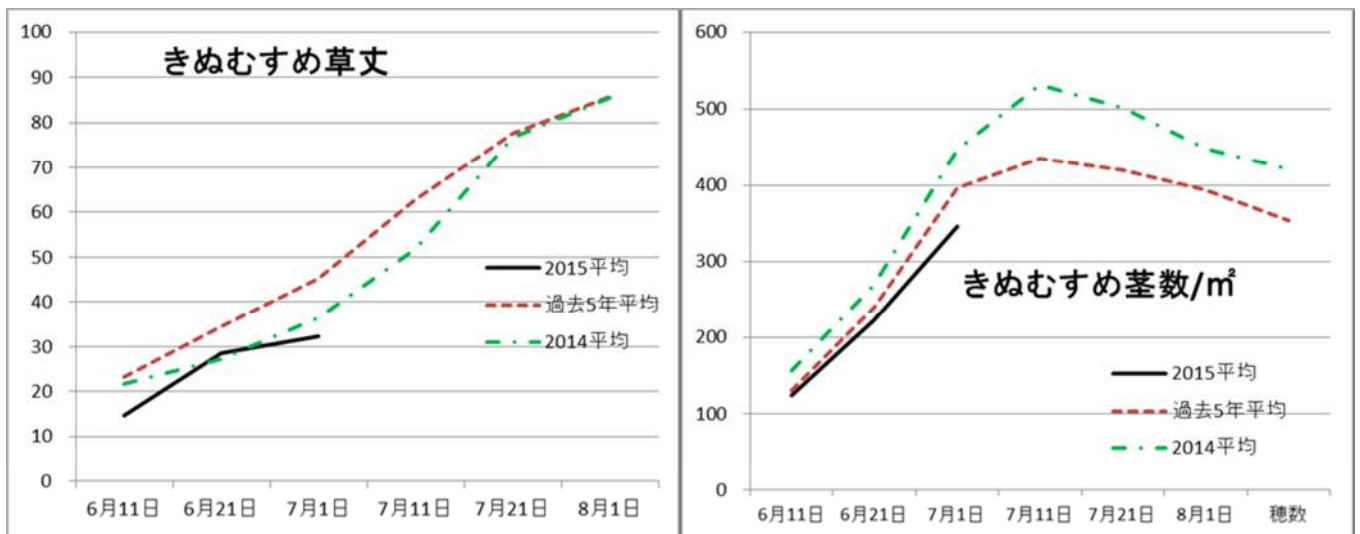
① 生育の概況

- ・7月1日時点で、平年に比べて葉齢の進展はほぼ平年並～やや早く、草丈は短い。
- ・5月上旬植えでは、分けつ初期の好天の影響により茎数が平年を上回っているが、5月下旬植えでは、平年を下回っている。葉色は全般的に平年並み～やや濃い。

② 今後の管理

- ・5月下旬植えは、間断灌水を実施するとともに、茎数が確保されたものから中干しに入る。
- ・茎数が少ない稲では、中干しは軽めに行う。
- ・今後1か月は気温がやや低くなる予報であることから、低温によって生育遅延や生育不良が生じた場合の追肥は控える。
- ・葉いもちの発生に注意し、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する(いもち病の伝染源となるため)

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)



① 生育の概況

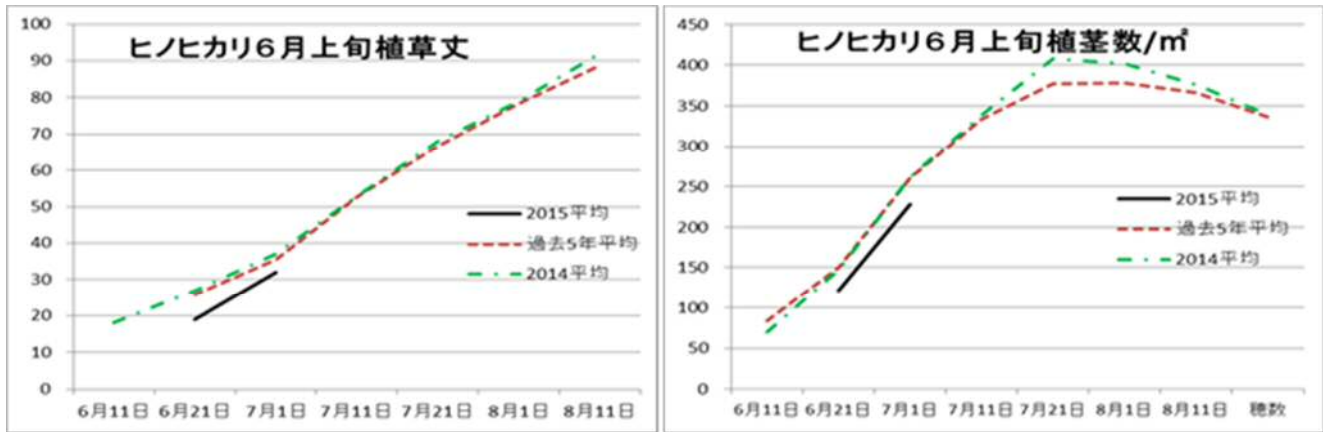
- ・7月1日時点で、平年に比べて葉齢の進展はほぼ平年並～やや遅い。6月の低温傾向により生育は鈍化しており、草丈は短く、茎数は平年を下回っている。葉色は概ね平年並みで経過している。

② 今後の管理

- ・5月下旬植えで茎数が多いほ場では、中干しを徹底する。茎数が少なく葉色の発現が悪いほ場では、根痛みしている可能性があるため、まずガスや赤枯れの発生の有無を確認し、落水・間断灌水の徹底等、根域の拡大と分けつの促進を図る。
- ・6月上旬植えも、m²当り茎数が400本以上になっている稲は、速やかに中干しを行う。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する(いもち病の伝染源となるため)。

(5) ヒノヒカリ (6月上旬植え)

① 生育の概要



- ・7月1日時点で、平年に比べて葉齢の進展はほぼ平年並み、草丈はやや短い。茎数はやや少なく、葉色は平年並み～淡い。
- ・入梅後の低温により初期生育は緩慢となり、周期的な天気変化のため10日前頃から赤枯れ症状が目立ち始めたが、現在は回復傾向である。

② 今後の管理

- ・初期分けつがやや緩慢であることから、早目に間断灌水に移行する。
- ・赤枯れ症状等根傷みが発生した場合は、落水して稲体の健全化を図る。

3 病害虫の発生状況

- ・BLASTAM (アメダス) の判定では、6月後半から全県的に、いもち病発生的好適条件が複数日生じている。山間部を中心に、葉いもちが発生したほ場が増加していることから、発生が認められた場合には、直ちに防除を行う。7月1日の予報では「やや多」に変更された。苗いもちおよび本田での葉いもち発生報告が多い(就農・技術支援室)。
- ・ヒメトビウンカは、6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率6.7%(平年12.4%)、10株当たり虫数0.0頭(平年0.2頭)で平年に比べやや少なかった。
- ・セジロウンカの初確認時期は6月3日で平年並、コブノメイガの初確認は6月14日で平年よりも早い。現時点での予想はいずれも平年並みの発生である。
- ・トビイロウンカは現時点で飛来が確認されていない。

いもち病が散見されるようになりました。早急に補植用の苗は除去し、病変が見られたら、防除に努めましょう！

予想される向こう1か月の天候

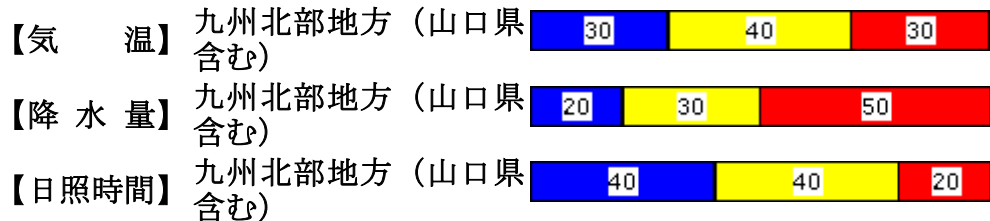
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、多い確率50%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

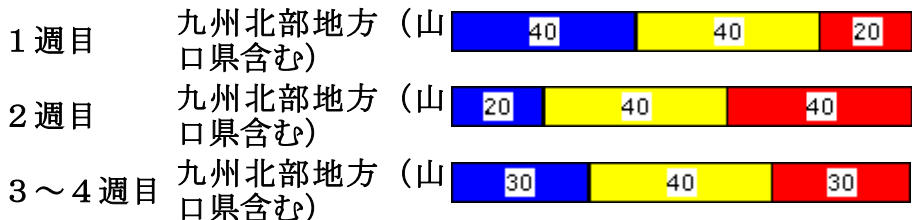
週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。




<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

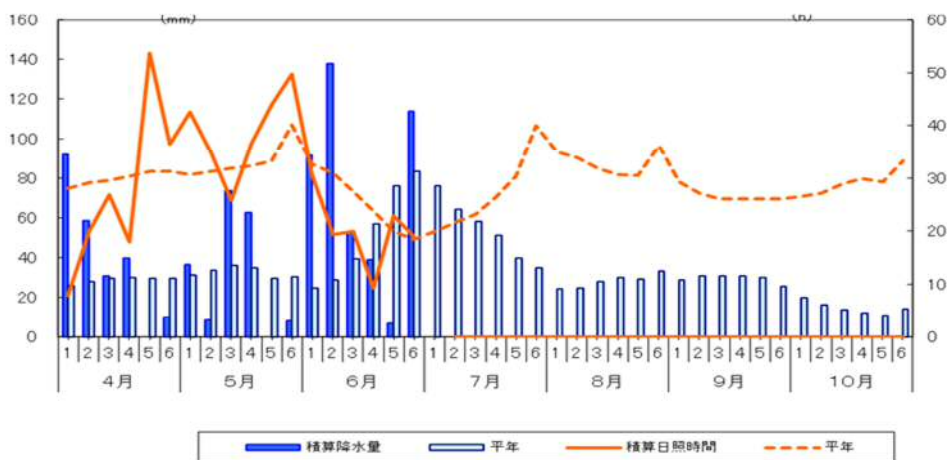
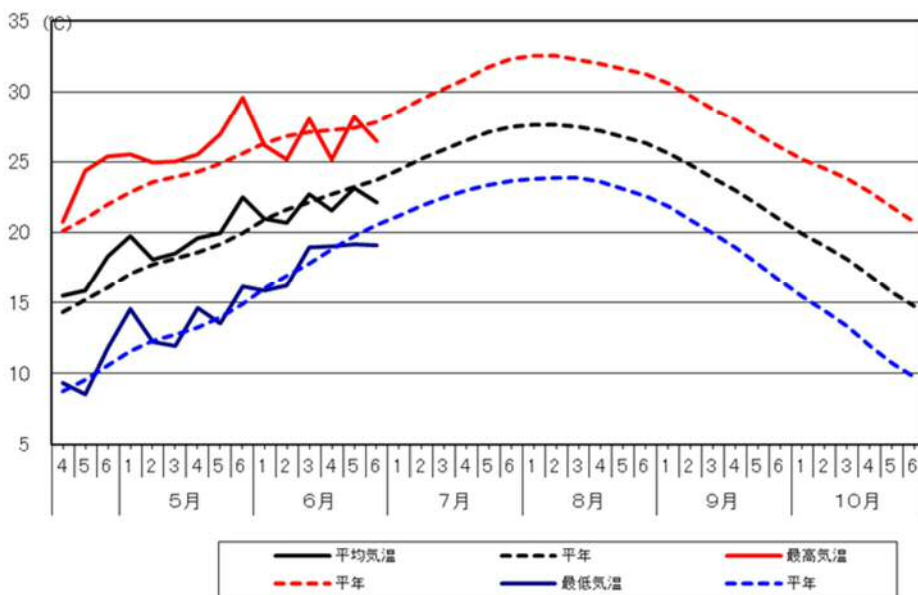


凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例:  低い  平年並  高い



降水量・日照時間 (アメダス山口)

5 定点調査の生育状況

品種	地帯	草丈		茎数/m ²		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	長門山間	53	▲ 3	487	15	10.8	0.5	4.1	▲ 0.2
	周防山間	45	▲ 5	458	31	9.9	▲ 0.0	4.4	0.2
	長門中間	57	▲ 1	360	▲ 31	10.9	1.3	4.4	0.0
	北浦	58	▲ 9	367	▲ 41	10.7	▲ 0.1	4.1	▲ 0.1
	瀬戸内東部	58	▲ 10	422	▲ 7	11.0	0.4	4.5	0.1
	平均	53	▲ 5	438	0	10.6	0.3	4.2	▲ 0.1
	農試定点	44	▲ 7	519	14	8.9	▲ 0.3	4.4	0.2
	農試奨決	61	▲ 11	591	▲ 16	10.2	▲ 0.2	4.6	▲ 0.1
	ひとめぼれ	周防山間	50	▲ 7	333	▲ 80	10.1	0.1	4.5
北浦		42	▲ 1	298	2	8.9	0.1	4.6	0.1
瀬戸内東部		50	▲ 4	460	47	10.0	0.4	4.3	▲ 0.2
瀬戸内西部		46	▲ 7	358	7	8.3	▲ 0.9	5.0	0.5
平均		48	▲ 5	357	▲ 21	9.5	▲ 0.0	4.6	0.1
農試定点		44	▲ 5	535	26	9.1	▲ 0.4	4.7	0.3
農試奨決		57	▲ 10	543	▲ 57	10.2	▲ 0.2	4.6	0.0
晴るる		長門中間	47	▲ 7	396	52	9.5	▲ 0.0	4.6
	農試奨決	59	▲ 9	615	▲ 18	9.7	▲ 0.5	4.6	0.0
きぬむすめ	周防山間	47	▲ 3	498	▲ 61	10.0	▲ 0.5	4.5	0.3
	長門中間	37	▲ 9	314	▲ 59	8.6	▲ 0.2	4.3	▲ 0.0
	北浦	34	▲ 5	320	▲ 56	8.1	▲ 1.3	4.4	▲ 0.0
	平均	32	▲ 13	346	▲ 51	8.7	▲ 0.5	4.3	▲ 0.0
	農試定点	38	▲ 8	502	16	9.1	▲ 0.2	4.5	0.3
	農試奨決	54	▲ 11	597	25	9.9	▲ 0.4	4.5	▲ 0.1
ヒノヒカリ	北浦	46	46	320	▲ 56	8.1	▲ 1.3	4.4	▲ 0.0
6月上旬植	瀬戸内東部	29	▲ 5	208	▲ 58	7.1	▲ 0.3	4.3	▲ 0.1
	瀬戸内西部	26	▲ 7	194	13	6.8	▲ 0.9	3.9	▲ 0.5
	平均	32	▲ 4	228	▲ 32	7.5	▲ 0.4	4.2	▲ 0.2
	農試奨決	28	▲ 3	172	▲ 77	6.9	▲ 0.5	4.1	▲ 0.4
ヒノヒカリ	瀬戸内西部	-	-	80	▲ 10	3.7	▲ 0.3	3.7	0.2
6月中下旬植	農試定点	25	0	105	▲ 28	5.8	0.0	4.2	0.2
山田錦	長門山間	36		271		8.6		4.3	
	北浦	35	▲ 4	276	▲ 93	8.6	▲ 0.5	4.4	0.1
	瀬戸内東部	33		232		8.2		4.2	
	平均	37		293		8.5		4.3	